

## 第3回 足羽川河川空間利活用促進懇談会 議事概要

日 時：平成20年9月9日（火）

場 所：AOSSA601会議室

出席者：別紙資料参照

○ 木製堰についての補足説明を事務局より行った後、福原会長の進行のもと意見交換を行った。なお、福原会長より、公開の有無について事前に委員の了解が得られたことから、意見交換についても公開で行う旨の説明があった。

### ○ 委員からの主な意見

#### (1) 木製堰について

委員からの質問と県の回答、その他の主な意見は以下のとおり。

- ・ 堰の代案として、公平性の点からもイベントの少ない花月橋～日野川合流点区間での既存施設を利用した水辺利用を提案する。  
→（県）人が集まる駅周辺での利活用案についても、良いアイデアがあれば伺いたい。
- ・ 鮎の遡上への影響を考慮すると、堰の設置日数はどのくらいか。  
→（県）5月、6月、10月で、それぞれ7日～10日と考えている。
- ・ 足羽川の下流の方が釣りも楽しめて良い。堰については管理面でも費用がかかるのであればやめた方が良い。
- ・ 堰について市民への説明不足である。地元では「治水のために桜は切られるのに、せっかく広げた川に堰を造るのはいかがか。」といった意見もある。
- ・ 『親水空間』とは、県はどういったことを言っているのか。  
→（県）水に触れるだけでなく、見て楽しむ、音を楽しむ、においを感じるといった五感全てで楽しめる空間が親水空間と考えている。
- ・ 地元でも親水空間を県が整備しようとしているという点については評価しているが、堰の設置については理解できない。
- ・ 音を楽しむのであれば、九十九橋の上流側に設置すべきではないか。  
→（県）堰は床固めを利用して設置できるものであり、他の場所への設置は費用の面から難しい。
- ・ 堰の設置を予定している5月、6月、10月は、季節的に子供が川で遊ばない時期なのではないか。また、カヌーやボートといった遊びは一部の人がするだけなのではないか。
- ・ カヌーで言えば、堰による活用方法としては初心者のための教室の場であり、経験者にとっては、流れがあった方が良い。また、夏場に設置できないのであれば、初心者にとっては水温も低く季節的に厳しい。
- ・ 堰については、屋形船のイメージ（酒、芸者等）が悪いのではないか。木製堰は

全国でも2, 3しかない珍しいものだから観光資源としてぜひ設置すべきと考える。

- ・ 堰の維持管理には費用もかかり、沿川の人全てがやろうという気持ちにならないと実施は難しいのではないかと。
- ・ 県が説明している住民のサポートとはどのような事か。  
→ (県) 県のスタンスとしては、整備はするが設置撤去費用をまかなっていくことはできないが、住民が費用を出せということではない。堰の設置についてボランティアで参加していただく等、地元の地域活動として継続的に運営をしていって欲しいということである。
- ・ 1年のうちで1週間程度が2, 3回ではもったいない。
- ・ 堰を1箇所だけでなく、幸橋付近にもう1箇所設置すれば、50cm程度のものになり撤去しなくて良くなるのではないかと。  
→ (県) 堰は床固めを利用して整備できるものであり、それ以外は難しい。また、50cmでも撤去しないわけにはいかない。
- ・ 堰については賛成だが、進め方としては、完成した床固めをみんなに見てもらってからもう一度議論する等、時間をあけてみてはどうか。
- ・ 親水空間の整備については、もう少し福井市ともタイアップすべき。
- ・ 堰については賛成、水が少ない川は川らしくない。もっとメリットデメリットを具体的に示して欲しい。メリットが多ければ賛成である。

## (2) 河川敷の利用について

- ・ スケートボード等ができるような、若者の遊べるスペースについても検討してはどうか。
- ・ 板垣橋付近で、斜路など身障者がもっと利用しやすくして欲しい。  
→ (県) 現在、雑草等でふさがっている斜路については、再び使えるようにしたい。

## (3) その他の意見

- ・ ホームレスについて女性から怖いという声がある。もっと強硬な対応がとれないのか。  
→ (県) 福井市の特別相談員が説得しているが一朝一夕にはいかない状態。河川管理者としてもパトロール時の呼び掛けなどする。

## (4) 会長のコメント

- ・ 次回は分科会で利活用に関しての意見を聞く。

## ○ 今後の予定

- 10月 1日 (水) 分科会+全体会議 (意見集約)
- 10月18日 (土) パネルディスカッション (意見発表)